



病院長ごあいさつ

開院60周年にあたって

関西労災病院が60周年という節目の年を迎えることができましたのも、皆様のご支援ご協力の賜物と、厚く御礼を申し上げます。

当院は、昭和28年1月に地域の強い要望を受けて、4診療科病床数50床をもって開院し、現在では26診療科642床にまでなっております。その間、労働者健康福祉機構の設立理念に基づき、勤労者の医療を推進するとともに、阪神圏域の中核病院として、質の高い急性期医療や高度医療、救急医療を提供してまいりました。また、13年にわたる長い増改築期間を経て平成16年3月に現在の病院建物が竣工し、その後も、新手術室棟の増築、外来化学療法室や内視鏡室の拡充、最新医療機器の導入を行い、高度医療の進歩に対応してまいりました。

地域がん診療連携拠点病院の指定を平成19年1月に受け、阪神圏域のがん診療の中心病院として地域の皆様の信頼を得るように努めてまいりましたが、今後のがん診療の高度化を考え、現在放射線治療棟の新築工事を進めています。来年には「がんセンター」として開設し、高度ながん診療を提供してまいりたいと思っております。

平成21年12月には地域医療支援病院に承認され、医師会や地域医療機関の皆様との連携を進め、地域医療に積極的に取り組んでまいりました。今後も医療連携総合センターを中心として、地域の医療連携をさらに強化してまいりますので、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

また、地域住民の皆様には、市民公開講座等を通じて最新の医療や疾病予防の情報を提供させていただいておりますが、今後も継続し、地域の健康増進に努めてまいります。

近年の医学医療の進歩には目を見張るものがあり、また、人口の高齢化に伴う疾病構造の変化や労災疾病の変化を考えますと、当院の果たす役割も大きく変化することが予想されます。今後も関西労災病院の理念である「良質な医療を働く人々に、地域の人々に、そして世界の人々のために」のもと、地域と勤労者の皆様の信頼と期待に応えるべく、職員一同全力を挙げて病院運営に努めてまいりますので、今後ともご支援ご協力よろしくお願い申し上げます。



関西労災病院
病院長
林 紀夫

寄稿

関西労災病院は、労災病院の使命である勤労者医療を関西地方において提供すべく、尼崎市を始め地域の強い要望を受け、4つの診療科、病床数50床をもって昭和28年1月に開院いたしました。

その後、地域における高度急性期医療需要に応えるとともに、勤労者医療の一層の推進を図るため、逐次増築、増床、診療科の増設を行うほか、専門センターの整備や320列CTや3テスラのMRIなどの各種最新医療機器を導入するなど、診療体制の充実を図ってまいりました。その結果、現在では26の診療科、病床数642床を有するに至っております。

また、勤労者医療のみならず、平成19年1月には、地域がん診療連携拠点病院の指定を、平成21年12月には地域医療支援病院の承認を受けるなど、尼崎市、阪神圏域の中核的な病院として、勤労者や住民の皆様の期待と信頼に応えるべく、歩み続けております。

このように、関西労災病院が今日まで着実に発展し、円滑な運営を続けてくることができましたのも、皆様の御理解と御支援の賜物と感謝申し上げます。

さて、近年、労働態様や労働環境の変化に伴う労働災害、職業性疾患の質的变化及び人口の高齢化に伴う疾病構造の変化等により、健康の保持増進に対する社会的な関心が高まるなど、医療機関を取り巻く環境が大きく変化してきており、労災病院におきましても、国の労働政策の一翼を担う医療機関として、こうした変化に適切に対応することが求められています。

関西労災病院もこのような環境の変化に適切に対応するため、勤労者医療に係る取組として、勤労者心の電話相談、アスベスト疾患センターを設置するなど、地域の中核的な病院として勤労者医療を推進し、さらに、今年度は放射線治療装置更新に伴う新しい治療棟の新築工事を始め、来年にはがんセンターとして稼働する計画を立てるなど、地域住民の皆様の期待と社会的使命に応えられる病院として確固たる地位を築いているところであります。

また、関西労災病院の理念である「良質な医療を働く人々に、地域の人々に、そして世界の人々のために」を掲げ、さらに阪神圏域の基幹病院としての役割を果たすため、運営方針を「がん」「脳・循環器」「勤労者の運動機能回復」と明確に位置付け、林院長のリーダーシップの下、病院のスタッフが一丸となって、地域医療、救急医療へのより積極的な取組を進め、医療連携総合センターを中心として、地元医師会の皆様、地域医療機関の皆様との緊密な連携協力関係の下に勤労者や地域の皆様の御期待に応えるべく日夜努力を重ねているところであります。

私ども労働者健康福祉機構は、関西労災病院をはじめ各労災病院と一体となって、こうした課題への対応にも積極的に取り組み、着実にその成果を上げつつあるところであります。

こうした取組の達成のためにも、行政関係の皆様、大学関係の皆様、そして医師会を始めとする地域の皆様の引き続きの御支援、御協力をお願いする次第であります。

終わりに当たりまして、関係機関の皆様方の御健勝を祈念し、今後とも引き続き御支援と御協力を賜りますよう重ねてお願い申し上げますとともに、関西労災病院のますますの御発展を祈念いたしまして、御祝いの御挨拶といたします。



労働者健康福祉機構
理事長
武谷 雄二

寄稿

関西労災病院が開院60周年を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。

60年という長い歴史の中でそれぞれ時代の様々なニーズに的確に答えられ、今日まで尼崎市民の健康を日々支えていただいておりますことに心から感謝を申し上げます。

さて、様々な時代が変化してまいりましたように、本市の町並みや環境も大きく変わり、昨年末には国から環境モデル都市の選定をいただくまでになりました。しかし一方で、結核に罹患される方が未だ多く見られ、アスベスト関連疾患の患者数も増加傾向にあります。また、生活習慣病についても重症化に至る方々が依然として多数おられます。尼崎市民の特に男性の平均寿命、健康寿命は県下平均を下回っている現状です。本市といたしましても、そのような市民の皆様の健康課題について、真摯に向き合うとともに、市民の皆様に寄り添い、しっかりと対策を進めてまいりたいと考えており、今年度からスタートしました本市の新たな総合計画において、今後10年間における重点的な取り組み項目の一つとして、市民の皆様の健康と自立を応援していくことを掲げております。そのためには、一人ひとりが健康であること、そして仕事や居場所、出番をしっかりと持ち、やりがいを感じながら生き生きと暮らせることが何よりも重要であると考えております。

本市におきましても、市民の皆様の健康課題に対して全力で取り組みを進めてまいりますので、関西労災病院の皆様におかれましても、引き続きのご指導と多大なるお力添えを心からお願い申し上げます。

最後になりましたが、貴病院が60周年の節目を契機に更なるご発展を遂げられますことを心から祈念いたしましてお祝いのご挨拶といたします。



尼崎市
市長

稲村 和美

関西労災病院の開院60周年を心からお祝い申し上げます。

私は尼崎市内で昭和61年から小児科を開業しており、関西労災病院は個人的にも大変お世話になっている病院です。ちょうど私が開業した頃に関西労災病院に地域医療室ができましたが、これは現在ある関労クラブの前身とも言うべきものです。当時は、医師会から職員を派遣しており、病診連携の業務を担っておりました。私たち開業医というのは、後方の病院が診てくださらないと非常に不安なものでありますが、私にとっては最初から関西労災病院がありましたので、鬼に金棒ということで開業いたしました。当時の患者さんは、関西労災病院に大変親しみを持っておられ、少し症状が長引くと「労災病院に紹介してください」とおっしゃられる方も多くて困ったものですが、関西労災病院の先生方は嫌な顔をせず引き受けてくださり、良い思い出となっています。

その後も関西労災病院が、地域がん診療連携拠点病院、地域医療支援病院となったことで、尼崎市医師会との関係もより深いものとなっております。現在、尼崎市医師会を中心に「h-Anshin むこねっと」というICTで病院と開業医を結ぶ連携を進めており、関西労災病院には、ぜひその中心、中核として阪神の医療にますます貢献していただきたいと期待しているところです。

関西労災病院におかれましては、60年経ってまた初心に戻り、更なる地域医療の発展に、医学の発展に精通していただきますよう祈念申し上げまして兵庫県医師会を代表しての挨拶とさせていただきます。



兵庫県医師会
代議員会議長

高原 周治

寄稿

関西労災病院が開院60周年を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。

この日を迎えることが出来たのは、歴代病院長先生はじめ、職員の方々の並ならぬご尽力の賜物とお慶び申し上げます。日頃より、関西労災病院の皆様には、尼崎市民並びに尼崎市医師会の会員が非常にお世話になり、厚く御礼申し上げます。

私事になりますが、私の実家は武庫之荘にあり、私の父も祖父も関西労災病院に大変お世話になっており、足を向けて寝れないというのが私個人の心情でございます。当時はまだ木造の病棟で、非常に暗い印象の病院でしたが、平成16年に現在の新病院が竣工されました。駐車場の建設を取りやめ、ホスピタルパークといった患者さんに安らぎを与える施設の建築を重視され、大変喜ばしく思っております。診療科の充実、勤労者医療推進室、地域医療連携総合センター、関労クラブ等を創設され、地域医療機関との連携に積極的に取り組まれています。また、医療機関向けの情報誌「かんろう、ねっと」や患者さん向けの情報誌「さぶりめんと」の発行、勤労者予防医療センターの講習会といった活動を熱心にされ、これからの医療を見据え、時代を先取りした医療を推進していただいております。

尼崎市医師会におきましても、阪神南北圏域を繋ぐ地域医療連携システム「h-Anshinむこねっと」を今年度中に完成させるために、基幹病院、民間病院、救急病棟の先生方とともに、努力しております。市民の方にも喜んでいただけるシステムとなるべく、救急隊が搬送先を問い合わせる件数を可能な限り減らし、ITを用いて効率の良い救急搬送システムを構築し、運用していきたいと考えております。状況に合わせてベストな医療を提供できるシステムの構築のために、関西労災病院と医師会で連携を深めて考えていくことが重要です。今後は、高齢者が増え、病院が患者さんを診るのではなく、地域が患者さんを支える医療をしていかなくてはならないと考えております。つきましては、「h-Anshinむこねっと」で医療機関情報システムや患者情報の共有システムを構築してまいります。

最後に、これからも関西労災病院の皆様が持たれている個性を活かされ、病院一丸となって新しい医療に向かい、発展されますよう祈念いたしまして御祝いの言葉とさせていただきます。



尼崎市医師会
会長
黒田 佳治

関西労災病院が開院60周年を迎えられましたことを心からお慶び申し上げます。

また、関西労災病院におかれましては、昭和28年1月20日の開設以来、地域において良質な医療を提供するとともに、労災医療をはじめ様々な政策課題に取り組んでいただいていることにつきまして改めて感謝申し上げます。

兵庫県内における労働災害の動向を見ますと、年間約2万2千人の方が業務災害や通勤災害で被災されており、また、近年では、石綿関連疾患、脳・心臓疾患や精神障害等の発症による労災請求事案が増加しております。さらに、職場におけるいじめ、嫌がらせについての労働局への相談が、平成24年度には5千件を超えたところです。

このような中で、関西労災病院におかれては、病院運営の基本方針の第一に、「働く人々の健康確保のため、勤労者医療の中核的役割を担って、これを推進する」と謳われ、阪神間における急性期高度専門医療を提供する中核病院として、勤労者医療の推進に積極的に取り組んでいただいているところです。

特に、過労死予防対策やメンタルヘルス予防対策に積極的に取り組んでいただき、勤労者予防医療センターにおける「勤労者心の電話相談」をはじめ、私ども行政と連携した周知啓発活動についても大きな役割を担っていただいているところです。

また、労災疾病に関する研究については、シックハウス症候群、がん罹患勤労者の治療と就労の両立、化学物質のばく露による産業中毒に関する研究に取り組んでいただくとともに、石綿やじん肺に係る健康管理手帳による健康診断実施機関としてもご協力をいただいているところです。

さて、我が国は、世界保健機構(WHO)の発表する健康達成度の各国比較において、健康寿命及び健康達成度の総合評価が世界一とされているところであり、我が国の医療は国際的に高い評価を受けております。

一方、世界に例を見ない急速な少子高齢化が進行する今日、国民が生き甲斐をもって暮らせる豊かな社会を築き上げるため、全ての国民が健康に不安なく暮らせる環境づくりが重要な課題となっており、医療機関の果たす役割は益々大きなものとなっております。

関西労災病院におかれましては、開設60周年を機に、地域医療の中核的機関として益々地域住民の信頼を得られるとともに、勤労者医療機関として、様々な政策的課題に対応いただき、勤労者医療の更なる向上と発展に貢献していただくようご期待申し上げます。

最後になりますが、関西労災病院の益々のご発展とご活躍を祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。



兵庫労働局
局長
前田 芳延

寄稿

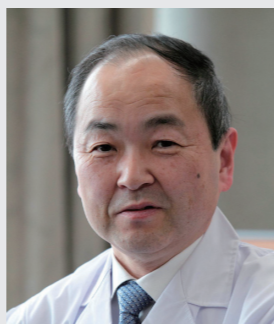
寄稿

関西労災病院がこの度、開院60周年を迎えられましたことを心よりお慶び申し上げます。

関西労災病院は、大阪大学にとりまして中心的な関連病院であり、この60年間、多数の診療科と深い連携を取っていただきました。優れた医療の提供、人材育成に力を入れられ、とりわけ研修医や若手医師の育成にご尽力いただき、多数の医療人が関西労災病院から巣立っていきました。大阪大学医学部附属病院を代表いたしまして、御礼と長年のご苦勞にたいして敬意を表します。

さて、関西労災病院は、昭和28年に設立され、当初は内科、外科、整形外科、理学診療科の4診療科、病床数50床をもって診療を開始されたと聞いております。私は整形外科医でありますので、60年間にわたり、多くの整形外科医がお世話になってきたということは大変感慨深いものがあります。高度な医療技術の習得だけでなく、医師として、そして人間として優れた人材を多数育てて頂き感謝致します。これは、関西労災病院の素晴らしい理念『良質な医療を働く人々に、地域の人々に、そして世界の人々のために』の下、歴代の病院長先生をはじめとした多くの指導者により、薫陶を受け、研鑽を積ませていただいた結果だと思っております。大阪大学整形外科にとりまして、多田浩一元副院長、大園健二現副院長をはじめ、多くの整形外科医に活躍の場を与えて頂き、この場を借りまして、心より御礼申し上げます。

60周年というのは、欧米では、ダイヤモンド婚式(結婚60周年)、ダイヤモンド・ジュビリー(王の即位60周年)など、金(50周年)よりも貴重な『ダイヤモンド』で表現しています。一方、東洋では、60周年は『還暦という』特別な意味を持っております。『還暦』は、60種類ある十干十二支が元に戻る、つまり、生まれだての赤ん坊にもう一度戻るという意味で、そのため、お祝いには赤い衣服を着ることになっております。さらに、60周年が2回巡ってくることを『大還暦』と言いまして、長寿では、最高の到達点とされております。今年から関西労災病院にとって、新たな60年がスタートいたします。これまでの60年間を振り返って頂き、また新たな気持ちで出発して頂き、『大還暦』を目指して、関西労災病院が今後ますます発展されますことを心より祈念いたします。



大阪大学医学部附属病院
病院長
吉川 秀樹

私は、平成10年4月より7年間、第5代関西労災病院長を務めさせていただきました。

病院長に着任した時は、平成3年から始まる13年計画という長期病院増改築工事の中頃であり、職員の皆様と相談し、設計変更を繰り返した末、平成16年に無事竣工することができました。丁度、「開院50周年」を迎えましたので、竣工記念と併せて盛大な祝賀式を開催させていただきました。また在任中に、「病院機能評価」を初めて受審することとなり、職員の方々と力を合わせて奮闘しましたが、「60周年記念式典」では、当時の職員の皆様の懐かしい顔を多々拝見し、当時のことが想起され、正に感無量であります。関西労災病院は、昭和28年に全国で第4番目の労災病院として4診療科50床でスタートいたしました。関西労災病院が、今日も発展を続けることが出来ておりますのは、地域社会の多くの方々からのご指導、ご支援があつてのことです。心より御礼申し上げますとともに、今後一層のご協力、ご支援をお願いする次第であります。

昨今は「地域医療連携」の充実が求められております。院長として在任時、地域の先生方との「交流の場」となればと考へ、「地域医療室」を中心に「関労クラブ」を発足させましたが、現在、「登録医会員」数は700余名に及んでおります。「関労クラブ」は地域医療連携の基盤であり、先生方は関西労災病院の「強力なサポーター」であります。深く御礼申し上げますとともに、引き続きのご協力をお願いする次第であります。

また、関西労災病院が誇るべきものにボランティアの方々の活動があります。患者さんの受診支援やリネンの整備をいただいている「エプロンの会」の方々、夏の猛暑のなか、黙々と「ホスピタルパーク」の手入れをいただいている「ガーデナー会」の方々、素晴らしい絵画展示で癒しを与えていただいている「二科会有志」の方々など、皆様は関西労災病院「チーム医療」の一員です。今後とも、病院の発展に職員と共に協力いただければ幸いです。何卒よろしく願いいたします。

さて、現代は「少子高齢化時代」であります。「勤労者人口」が限りなく減少しており、国家的課題となっております。「労災病院」のそもそもの設立理念は、「労災医療を推進する。」ことでしたが、現在は働く人々の健康を保つ医療ニーズに応える「勤労者医療」を推進することが第一理念とされております。勤労者人口が減少しつつある我が国の現況を考えると、これからの労災病院の使命は益々重くなるものと信じております。「開院60周年」、人生で60歳といひますと「定年退職の年」であります。しかし、関西労災病院では、年々新しい医療人材が投入され、医療機器も更新され、また機能設備も次々と増設されており、正に「成長発展過程の青年期」にあると思ひます。

最後に、卓越した先見性と指導力、管理力と施策推進力を持って病院の発展に活躍していただいている現病院長 林 紀夫先生ならびに現役職員の皆さんに盛大なエールを贈り、(私は、「巨人ファン」ではありませんが、)「我が関西労災病院は永遠です！」と申し上げて、「お祝い」のご挨拶とさせていただきます。



関西労災病院
名誉院長
早川 徹

沿革

当院は、尼崎市の西北部、国立公園六甲山を仰ぐ風光明媚な武庫川沿いに位置し、阪神間における急性期高度医療を提供する中核病院として、勤労者医療と地域医療の推進に積極的に取り組んでいます。

特に、当院が所在する尼崎市は、人口46万人余りを有する大都市でありながら市民病院がないことから、市民が健康管理面において当院へ寄せる期待は殊のほか大きく、「地域に生き、社会の要請に応える病院」として、その存在意義は高く評価されているところです。

昭和25年	尼崎市が中心となり兵庫県、尼崎市商工会議所等と共同して、阪神間50万都市である尼崎市を支える多数の労働者の健康管理と福祉の増進を図るため、関西労災病院の設置を労働省(現 厚生労働省)に対して強く要望し、労働省が現地調査をするなどあらゆる検討を行った結果、設置することを決定する。
昭和26年11月	尼崎市の協力で33,212m ² の土地提供を受け、労働省所管の政府出資による最初の労災病院として着工する。
昭和28年 1月	内科、外科、整形外科、理学診療科の4診療科、病床数50床をもって診療を開始する。(当初は(財)労災協会が運営)
8月	眼科、耳鼻咽喉科、神経科、皮膚泌尿器科、歯科の5診療科を新設し、病床数を100床に増床する。
昭和31年 4月	当初計画の病床数548床に増床する。
昭和32年 7月	労働福祉事業団の設立に伴い、運営を労災協会から移管する。その後、勤労者の医療ニーズに積極的に対応するため、産婦人科、小児科、麻酔科、脳神経外科、放射線科、形成外科の新設、皮膚科、泌尿器科の分科、検査科の独立など診療体制の整備を行う。
昭和35年 3月	総合病院の承認を得ると共に、本館、手術棟、看護婦寮などを拡充するため増改築工事に着手する。
昭和40年 3月	第1期工事として5階建て東西病棟の東棟が完成する。
昭和42年 1月	第2期工事として西棟が完成し、近代的病院にふさわしい装いを整える。
昭和43年10月	結核病床50床、精神病床14床を増床し、病床数612床となる。
昭和45年 4月	付属施設として医療検査大学校を開校する。
昭和48年 3月	重症治療部(ICU)を開設する。病床数を8床増床し、620床となる。
4月	付属施設として関西労災高等看護学院(定時制進学課程)を開校する。その後、関西労災看護専門学校に名称を変更する。
昭和52年 4月	リニアック棟竣工に伴い、リニアック治療、リモートアフターローダー(体腔内治療装置)を含む放射線治療部を開設する。
昭和54年 4月	X線CTスキャナーを導入する。
昭和56年 8月	心臓血管外科を新設する。
昭和57年 7月	付属施設として健康診断センターを開設すると共に、手術部、中央材料部、放射線部、検査部及び薬剤部などの拡充整備を図る。
昭和58年 4月	一般病床66床を増床、結核病床30床を減床し、病床数656床となる。
12月	病棟改修に伴い10床増床し、病床数666床となる。
昭和59年 4月	医師の卒後教育のため、厚生省の臨床研修病院の指定を受ける。
5月	病棟改修に伴い4床増床し、病床数670床となる。
昭和60年 6月	精神科を新設し18診療科となる。
昭和62年 3月	医療検査大学校を閉校する。
4月	神経科の標榜を神経内科に変更する。
昭和63年 4月	磁気共鳴装置(MRI-CT)を設置する。
平成 3年 4月	13年計画の増改築工事を開始する。
平成 5年 3月	関西労災看護専門学校の増改築工事が竣工する。
平成 6年 1月	体外衝撃波結石破碎装置(ESWL)を設置する。
平成 7年 1月	阪神大震災発生。病院本体への被害は思いのほか少なく、関係機関の協力と応援を得て診療を継続する。
平成 8年 7月	兵庫県からエイズ拠点病院の指定を受ける。
10月	病床の種別変更により結核病床20床、精神病床14床を変更し、一般病床670床となる。第1期工事が竣工し南棟(9階建て)が完成する。
平成10年 1月	専門センターとして勤労者メンタルヘルスセンターを開設する。
4月	循環器科を標榜し19診療科となる。

沿革

平成11年10月	勤労者医療を推進するため、勤労者医療推進室を開設する。
12月	勤労者メンタルヘルスを推進するため、勤労者心の電話相談室を開設する。
平成12年 3月	第2期工事が竣工し北棟(10階建て)が完成する。
平成13年 1月	神経・精神科の標榜を心療内科・精神科に変更する。
平成14年 1月	医療情報部を開設する。
4月	歯科の標榜を歯科口腔外科に変更する。外来棟が完成する。
6月	救急部を開設する。管理棟の西側部分が完成する。
平成15年11月	病院エントランス部分と管理棟の東側部分が完成する。
平成16年 3月	13年に及ぶ増改築工事が竣工(ホスピタルパーク含む)。
4月	『労働福祉事業団』から『独立行政法人労働者健康福祉機構』へ組織改編。
9月	(財)日本医療機能評価機構が実施する病院機能評価の認定(ver.4.0)を取得する。
10月	病院創立50周年記念式典を実施。増加する化学物質による疾患への対応として化学物質過敏症診療科を新設。
11月	ガンマナイフ(定位放射線治療装置)を導入(同年12月より治療開始)。
平成17年 4月	早川前院長に代わり奥院長が病院長に就任する。JR福知山線脱線事故の被害者に対するメンタルヘルス電話相談を開始。
6月	南6階病棟(一般病棟)を回復期リハビリテーション病棟(52床)へ改装(同年8月稼働)。平成19年より南7階に移動。
9月	アスベスト疾患センターを設置。エキシマレーザーによる冠動脈形成術(高度先進医療)をスタート。
11月	結石破碎装置を新機種(ドルニエリソトリプターD)へ更新。
平成18年 4月	放射線科の組織を改編、放射線診断部、放射線治療部、核医学診断部を分離独立させる。外科の組織を改編、消化器外科、乳腺外科を分離独立させる。
7月	DPC(診断群別定額払い方式)を導入。緩和ケア対象病床を8床から18床とする。
平成19年 1月	地域がん診療連携拠点病院に指定される。
2月	PET-CT(ポジトロン断層撮影装置)を導入。
6月	心臓血管センター(CCU8床を含む)を設置。(総病床数は670床から642床となる。)
平成20年10月	緩和ケア外科を正式標榜。
平成21年 6月	(財)日本医療機能評価機構が実施する病院機能評価の認定(ver.5.0)を更新する。
12月	地域医療支援病院に承認される。
平成22年 3月	地域がん診療連携拠点病院に指定更新される。
4月	奥前院長に代わり林院長が病院長に就任する。CT320列装置、MRI3.0テスラ導入。
5月	電子カルテシステム導入。
平成23年 1月	消化器外科を正式標榜。
3月	手術室4室増改築し、計13室体制を構築。
4月	乳腺外科、消化器内科、循環器内科を正式標榜。医療連携総合センター開設。
9月	頭頸部外科を正式標榜。
11月	外来化学療法室を移設・拡充(13床→20床)。
平成24年 2月	内視鏡センターを設置。
7月	放射線診断科、放射線治療科を正式標榜。
平成25年 6月	病院創立60周年記念式典を実施。

以上のとおり、当院は時代の変遷に伴う労働態様や職場環境の変化、勤労者の疾病構造の変化等に迅速且つ的確に対応するため、診療体制の整備と施設・設備の拡充を図りながら勤労者医療を積極的に推進すると共に、当院の有する最新且つ高度な医療を広く地域住民に提供し、阪神間の急性期高度医療拠点病院としての役割を果たすように努力しているところです。

人事の変遷

(平成16年4月1日～平成25年12月1日)

職名	氏名	任命年月日	退任(転)年月日
院長	早川 徹	平成10年4月1日	平成17年3月31日
	奥 謙	平成17年4月1日	平成22年3月31日
	林 紀夫	平成22年4月1日	
名誉院長	最上 平太郎	平成10年4月1日	平成18年1月15日
	早川 徹	平成17年4月1日	
	奥 謙	平成22年4月1日	
副院長	永田 正毅	平成9年4月1日	平成23年3月31日
	多田 浩一	平成11年4月1日	平成18年6月30日
	高塚 雄一	平成16年4月1日	平成23年3月31日
	天野 勝	平成18年7月1日	平成22年3月31日
	大園 健二	平成21年4月1日	
	上松 正朗	平成24年4月1日	
	田村 茂行	平成24年4月1日	
院長補佐	奥 謙	平成16年4月1日	平成17年3月31日
	上松 正朗	平成23年1月1日	平成24年3月31日
	田村 茂行	平成23年1月1日	平成24年3月31日
特任副院長	清谷 哲朗	平成20年7月1日	
	高塚 雄一	平成25年4月1日	
内科部長	永田 正毅	平成9年4月1日	平成23年3月31日
	和泉 雅章	平成23年4月1日	
第二内科部長	南都 伸介	平成15年4月1日	平成21年6月30日
	石田 良雄	平成22年4月1日	平成23年3月31日
	横川 朋子	平成23年4月1日	
第三内科部長	横川 朋子	平成15年4月1日	平成23年3月31日
	金子 哲也	平成23年4月1日	平成25年3月31日
	橋本 光司	平成25年4月1日	
第四内科部長	上松 正朗	平成15年4月1日	平成23年3月31日
	橋本 光司	平成23年4月1日	平成25年3月31日
第五内科部長	久保田 真司	平成15年4月1日	平成18年3月31日
	山本 茂生	平成18年4月1日	平成21年3月31日
	奥田 恭久	平成21年4月1日	平成21年8月31日
	萩原 秀紀	平成22年4月1日	平成23年3月31日
第六内科部長	山本 茂生	平成15年4月1日	平成18年3月31日
	両角 隆一	平成18年4月1日	平成21年8月31日
	石田 良雄	平成21年9月1日	平成22年3月31日
	和泉 雅章	平成22年4月1日	平成23年3月31日
第七内科部長	両角 隆一	平成16年4月1日	平成18年3月31日
	伊藤 敏文	平成18年4月1日	平成21年3月31日
	萩原 秀紀	平成21年4月1日	平成22年3月31日
	伊藤 善基	平成22年4月1日	平成23年3月31日
第八内科部長	伊藤 敏文	平成16年6月1日	平成18年3月31日
	池田 雅彦	平成18年4月1日	平成21年3月31日
	和泉 雅章	平成21年4月1日	平成22年3月31日
	橋本 光司	平成22年4月1日	平成23年3月31日
第九内科部長	伊藤 善基	平成19年4月1日	平成22年3月31日
	金子 哲也	平成22年9月1日	平成23年3月31日
第十内科部長	和泉 雅章	平成20年4月1日	平成21年3月31日
	橋本 光司	平成21年4月1日	平成22年3月31日
内科副部長	伊藤 善基	平成14年4月1日	平成19年3月31日
	池田 雅彦	平成15年4月1日	平成18年3月31日
	橋本 光司	平成16年4月1日	平成21年3月31日
	後藤 浩之	平成17年4月1日	平成20年10月31日

職名	氏名	任命年月日	退任(転)年月日
内科副部長	村田 浩昭	平成18年9月1日	平成21年3月31日
	奥田 恭久	平成19年9月1日	平成21年3月31日
	五郎川 伸一	平成21年4月1日	平成22年12月31日
	倭 正也	平成21年4月1日	平成22年3月31日
	飯田 慎一郎	平成21年9月1日	平成23年12月31日
	渡部 徹也	平成22年4月1日	平成23年3月31日
	牧野 仁	平成22年4月1日	平成23年3月31日
	山本 恒彦	平成23年1月1日	
	中田 裕人	平成25年4月1日	
消化器内科部長	萩原 秀紀	平成23年4月1日	
第二消化器内科部長	伊藤 善基	平成23年4月1日	
第三消化器内科部長	望月 圭	平成23年4月1日	平成25年8月31日
消化器内科副部長	牧野 仁	平成23年4月1日	平成25年3月31日
	糸瀬 一陽	平成24年4月1日	
	柄川 悟志	平成24年4月1日	
脳神経内科部長	森脇 博	平成24年5月1日	
心療内科・精神科部長	柏木 雄次郎	平成12年10月1日	平成18年3月31日
	梅田 幹人	平成18年4月1日	
第二心療内科・精神科部長	辻本 浩	平成23年4月1日	
心療内科・精神科副部長	辻本 浩	平成18年4月1日	平成23年3月31日
神経内科部長	梶山 幸司	平成4年4月1日	平成18年3月31日
神経内科副部長	馬淵 卓真	平成17年4月1日	平成17年9月30日
循環器科部長	南都 伸介	平成14年4月1日	平成21年6月30日
	上松 正朗	平成21年8月1日	平成23年3月31日
循環器内科部長	上松 正朗	平成23年4月1日	
第二循環器内科部長	石田 良雄	平成23年4月1日	平成25年3月31日
循環器内科副部長	渡部 徹也	平成23年4月1日	
	藤田 雅史	平成23年4月1日	
	粟田 政樹	平成25年4月1日	
小児科部長	泉 裕	平成13年4月1日	
小児科副部長	三輪谷 隆史	平成18年4月1日	平成21年3月31日
	渋谷 裕子	平成23年4月1日	平成24年3月31日
	指原 淳志	平成23年4月1日	
外科部長	田村 茂行	平成23年4月1日	
	高塚 雄一	平成16年4月1日	平成23年3月31日
第二外科部長	富田 尚裕	平成13年4月1日	平成19年3月31日
	田村 茂行	平成19年4月1日	平成23年3月31日
第三外科部長	大里 浩樹	平成14年4月1日	平成18年3月31日
	田村 茂行	平成18年4月1日	平成19年3月31日
	杉本 圭司	平成20年4月1日	平成22年3月31日
第四外科部長	田村 茂行	平成17年4月1日	平成18年3月31日
外科副部長	田村 茂行	平成14年1月1日	平成17年3月31日
	杉本 圭司	平成15年4月1日	平成20年3月31日
	相原 智彦	平成18年4月1日	平成18年12月31日
	岡村 修	平成19年4月1日	平成23年3月31日
	三木 宏文	平成19年4月1日	平成24年3月31日
消化器外科部長	富田 尚裕	平成18年5月1日	平成19年3月31日
	田村 茂行	平成19年4月1日	
第二消化器外科部長	杉本 圭司	平成20年4月1日	平成22年3月31日
	加藤 健志	平成23年4月1日	
第三消化器外科部長	武田 裕	平成23年4月1日	
消化器外科副部長	杉本 圭司	平成18年5月1日	平成20年3月31日

人事の変遷

(平成16年4月1日～平成25年12月1日)

職名	氏名	任命年月日	退任(転)年月日
消化器外科副部長	岡村 修	平成19年4月1日	平成23年3月31日
	三木 宏文	平成19年4月1日	平成24年3月31日
	武田 裕	平成22年4月1日	平成23年3月31日
	中田 健	平成23年4月1日	平成24年6月30日
	鈴木 玲	平成24年4月1日	平成25年3月31日
	谷口 博一	平成24年4月1日	
	中平 伸	平成25年4月1日	
	向坂 英樹	平成25年4月1日	
乳腺外科部長	高塚 雄一	平成19年4月1日	平成23年3月31日
乳腺外科副部長	相原 智彦	平成18年5月1日	平成18年12月31日
	柄川 千代美	平成21年4月1日	
緩和ケア科部長	杉本 圭司	平成20年7月1日	平成20年9月30日
	辻本 浩	平成23年4月1日	
緩和ケア科副部長	辻本 浩	平成20年7月1日	平成23年3月31日
	岡村 修	平成22年4月1日	平成23年3月31日
	中田 健	平成23年4月1日	平成24年6月30日
	堀 謙輔	平成24年4月1日	
	谷口 博一	平成24年7月1日	
緩和ケア外科部長	杉本 圭司	平成20年10月1日	平成22年3月31日
整形外科部長	多田 浩一	平成11年4月1日	平成18年6月30日
	大園 健二	平成18年7月1日	
第二整形外科部長	吉田 竹志	平成14年4月1日	平成16年12月31日
	大和田 哲雄	平成17年1月1日	
第三整形外科部長	大河内 敏行	平成16年4月1日	平成16年12月31日
	鈴木 省三	平成18年4月1日	平成21年12月31日
	田野 確郎	平成22年1月1日	
第四整形外科部長	田野 確郎	平成21年4月1日	平成21年12月31日
整形外科副部長	福岡 慎一	平成14年4月1日	平成16年6月30日
	坂和 明	平成14年4月1日	平成17年12月31日
	鈴木 省三	平成14年7月1日	平成18年3月31日
	田野 確郎	平成16年4月1日	平成21年3月31日
	梅田 直也	平成19年4月1日	平成20年6月30日
	前 達雄	平成20年4月1日	平成21年6月30日
	相原 雅治	平成21年4月1日	平成21年6月30日
	堀木 充	平成22年4月1日	
	山本 健吾	平成22年4月1日	
	坂浦 博伸	平成24年4月1日	
スポーツ整形外科部長	大園 健二	平成18年7月1日	
第二スポーツ整形外科部長	鳥塚 之嘉	平成21年4月1日	
スポーツ整形外科副部長	鳥塚 之嘉	平成16年4月1日	平成21年3月31日
形成外科部長	浅田 裕司	平成20年4月1日	
形成外科副部長	浅田 裕司	平成14年1月1日	平成20年3月31日
脳神経外科部長	瀧 琢有	平成16年4月1日	
第二脳神経外科部長	西尾 雅実	平成22年4月1日	平成24年3月31日
脳神経外科副部長	都築 貴	平成17年4月1日	平成20年6月30日
	西尾 雅実	平成20年7月1日	平成22年3月31日
	豊田 真吾	平成24年4月1日	
	森 鑑二	平成25年9月1日	
心臓血管外科部長	村田 弘隆	平成5年7月1日	平成18年3月31日
	柴田 利彦	平成18年4月1日	平成19年12月31日
	神 雅之	平成20年1月1日	平成21年12月31日
	三浦 拓也	平成22年1月1日	

職名	氏名	任命年月日	退任(転)年月日
第二心臓血管外科部長	安岡 高志	平成14年4月1日	平成22年8月31日
	井上 和重	平成22年9月1日	
第三心臓血管外科部長	井上 和重	平成18年4月1日	平成22年8月31日
	岩田 隆	平成25年4月1日	
心臓血管外科副部長	井上 和重	平成13年4月1日	平成18年3月31日
	三浦 拓也	平成18年4月1日	平成18年10月31日
	小林 靖彦	平成21年1月1日	平成23年3月31日
	岩田 隆	平成21年4月1日	平成25年3月31日
	横田 武典	平成25年4月1日	
呼吸器外科部長	村田 弘隆	平成6年2月1日	平成18年3月31日
	柴田 利彦	平成18年4月1日	平成19年12月31日
	神 雅之	平成20年1月1日	平成21年12月31日
	三浦 拓也	平成22年1月1日	
第二呼吸器外科部長	岩田 隆	平成25年4月1日	
皮膚科部長	足立 準	平成10年4月1日	平成17年3月31日
	滝尻 珍重	平成17年4月1日	平成18年2月28日
	幸野 健	平成18年3月1日	平成22年3月31日
皮膚科副部長	石田 勲	平成22年4月1日	平成23年6月30日
	山中 隆嗣	平成23年8月1日	平成25年3月31日
	福山 國太郎	平成24年9月1日	
泌尿器科部長	島谷 昇	平成6年7月1日	平成16年6月30日
	川端 岳	平成16年7月1日	
第二泌尿器科部長	川端 岳	平成16年4月1日	平成16年6月30日
	山中 邦人	平成21年4月1日	平成21年9月30日
	田口 功	平成23年4月1日	平成25年3月31日
	岡本 雅之	平成25年4月1日	
第三泌尿器科部長	田口 功	平成25年4月1日	
泌尿器科副部長	下垣 博義	平成17年4月1日	平成19年6月30日
	山中 邦人	平成20年4月1日	平成21年3月31日
	松原 重治	平成21年4月1日	平成24年3月31日
	田口 功	平成21年10月1日	平成23年3月31日
	松下 経	平成22年4月1日	平成22年9月30日
	山尾 裕	平成23年4月1日	平成25年3月31日
	岡本 雅之	平成24年4月1日	平成25年3月31日
産婦人科部長	伊藤 公彦	平成14年4月1日	
産婦人科副部長	高橋 俊一	平成12年4月1日	平成16年9月30日
	木村 俊夫	平成18年4月1日	平成19年2月28日
	堀 謙輔	平成20年4月1日	
	田島 里奈	平成24年8月1日	
眼科部長	本倉 雅信	平成13年4月1日	平成16年7月31日
	渡邊 仁	平成16年9月16日	
眼科副部長	中田 亙	平成24年4月1日	
耳鼻咽喉科部長	伊東 真人	平成3年5月1日	
頭頸部外科部長	伊東 真人	平成23年9月1日	
放射線科部長	東原 恵郎	昭和59年8月1日	平成20年3月31日
	友田 要	平成23年1月1日	
第二放射線科部長	渡邊 均	平成11年4月1日	平成18年4月30日
第三放射線科部長	松井 正典	平成18年4月1日	平成23年3月31日
放射線科副部長	大谷 雅俊	平成18年4月1日	平成19年3月31日
放射線診断部長	東原 恵郎	平成18年5月1日	平成20年3月31日
	友田 要	平成23年1月1日	平成24年4月30日
放射線診断科部長	友田 要	平成24年5月1日	

人事の変遷 (平成16年4月1日～平成25年12月1日)

職名	氏名	任命年月日	退任(転)年月日
第二放射線診断部長	渡邊 均	平成18年5月1日	平成24年4月30日
第二放射線診断科部長	渡邊 均	平成24年5月1日	
第三放射線診断部長	井上 悦男	平成20年4月1日	平成24年3月31日
	伊藤 康志	平成24年4月1日	平成24年4月30日
第三放射線診断科部長	伊藤 康志	平成24年5月1日	
放射線診断部副部長	井上 悦男	平成18年7月1日	平成20年3月31日
核医学診断部長	両角 隆一	平成18年5月1日	平成21年8月31日
	石田 良雄	平成21年9月1日	平成24年4月30日
核医学診断科部長	石田 良雄	平成24年5月1日	平成25年3月31日
核医学診断科副部長	河田 修治	平成25年4月1日	
放射線治療部長	松井 正典	平成18年5月1日	平成23年3月31日
	香川 一史	平成23年4月1日	平成24年4月30日
放射線治療科部長	香川 一史	平成24年5月1日	
放射線治療部副部長	大谷 雅俊	平成18年5月1日	平成19年3月31日
放射線科技師長	尾崎 新	平成14年4月1日	平成18年3月31日
	堀 哲生	平成18年4月1日	平成24年3月31日
中央放射線部長	堀 哲生	平成24年4月1日	平成25年3月31日
	鳥巢 健二	平成25年4月1日	
リハビリテーション科部長	住田 幹男	昭和60年7月1日	平成22年3月31日
	大園 健二	平成22年4月1日	
第二リハビリテーション科部長	瀧 琢有	平成14年4月1日	
第三リハビリテーション科部長	両角 隆一	平成16年4月1日	平成21年8月31日
	鳥塚 之嘉	平成22年4月1日	
第四リハビリテーション科部長	鳥塚 之嘉	平成21年4月1日	平成22年3月31日
リハビリテーション科副部長	坂和 明	平成14年4月1日	平成17年12月31日
	鳥塚 之嘉	平成16年4月1日	平成21年3月31日
リハビリテーション科副部長	小山 毅	平成25年4月1日	
リハビリテーション科技師長	大瀧 俊夫	平成13年4月1日	平成24年3月31日
中央リハビリテーション部長	大島 富雄	平成24年4月1日	
歯科口腔外科部長	北村 龍二	平成14年4月1日	
麻酔科部長	天野 勝	昭和59年4月1日	平成20年1月31日
	上山 博史	平成20年2月1日	
第二麻酔科部長	上山 博史	平成19年7月1日	平成20年1月31日
	林 英明	平成20年7月1日	平成25年3月31日
麻酔科副部長	林 英明	平成18年7月1日	平成19年6月30日
中央手術部長	天野 勝	平成5年7月1日	平成20年1月31日
	大園 健二	平成20年2月1日	
救急部長	岸 正司	平成18年4月1日	平成20年6月30日
救急部副部長	岸 正司	平成14年6月1日	平成18年3月31日
	西村 哲郎	平成19年4月1日	平成20年6月30日
	倭 正也	平成21年4月1日	平成22年3月31日
	三木 宏文	平成22年4月1日	平成24年3月31日
	高松 純平	平成24年4月1日	
	粟田 政樹	平成25年4月1日	
重症治療部長	岸 正司	平成18年4月1日	平成20年3月31日
	瀧 琢有	平成20年4月1日	
第二重症治療部長	西尾 雅実	平成22年4月1日	平成24年3月31日
重症治療部副部長	岸 正司	平成15年4月1日	平成18年3月31日
	都築 貴	平成17年4月1日	平成20年6月30日
	高松 純平	平成24年4月1日	
	粟田 政樹	平成25年4月1日	
検査科部長	上松 正朗	平成15年4月1日	平成21年7月31日

職名	氏名	任命年月日	退任(転)年月日
検査科部長	橋本 光司	平成21年8月1日	
第二検査科部長	森野 英男	平成8年5月1日	平成18年8月27日
	星田 義彦	平成18年10月1日	平成21年3月31日
	中塚 伸一	平成21年4月1日	
検査科技師長	遊佐 敏晴	平成14年4月1日	平成18年3月31日
	平岡 久孝	平成18年4月1日	平成22年3月31日
	牟田 幸成	平成22年4月1日	平成24年3月31日
中央検査部長	牟田 幸成	平成24年4月1日	平成25年3月31日
	佐藤 泰彦	平成25年4月1日	
病理科部長	森野 英男	平成7年4月1日	平成18年8月27日
	星田 義彦	平成18年10月1日	平成21年3月31日
	中塚 伸一	平成21年4月1日	
第二病理科部長	棟方 哲	平成16年10月1日	平成19年3月31日
	永野 輝明	平成25年4月1日	
病理科副部長	永野 輝明	平成22年4月1日	平成25年3月31日
医療情報部長	清谷 哲朗	平成14年1月1日	平成17年6月30日
	和田 安彦	平成18年4月1日	平成21年9月30日
	山縣 英久	平成21年11月16日	平成22年8月31日
	伊藤 善基	平成22年9月1日	
第二医療情報部長	山縣 英久	平成22年9月1日	
健康診断部長	横川 朋子	平成16年4月1日	
第二健康診断部長	平田 衛	平成21年4月1日	
健康診断部副部長	藤田 雅史	平成23年4月1日	
薬剤部長	韓 秀妃	平成16年4月1日	平成23年3月31日
	松原 史典	平成23年4月1日	
薬剤副部長	村岡 勝	平成15年4月1日	平成18年3月31日
	堀川 泰清	平成18年4月1日	平成22年6月30日
	谷口 一成	平成23年4月1日	
看護部長	大澤 清美	平成14年4月1日	平成17年3月31日
	吉田 正美	平成17年4月1日	平成19年3月31日
	初瀬部 千代	平成19年4月1日	平成21年3月31日
	田中 一美	平成21年4月1日	平成25年3月31日
	末岡 マキ子	平成25年4月1日	
看護副部長	棧 裕子	平成13年9月1日	平成18年3月31日
	山口 千恵美	平成17年4月1日	平成19年3月31日
	平井 三重子	平成18年4月1日	平成21年3月31日
	久松 千恵	平成19年4月1日	平成21年3月31日
	小幡 光子	平成19年4月1日	平成22年3月31日
	木谷 恵	平成21年4月1日	平成25年3月31日
	佐野 恵子	平成21年4月1日	
	高木 保子	平成22年4月1日	
	岩永 千秋	平成25年4月1日	
看護師長	曾根 愛子	平成14年3月1日	平成17年3月31日
	杉本 初枝	平成14年3月1日	平成20年3月31日
	山形 政子	平成14年3月1日	平成18年3月31日
	喜納 みちの	平成14年3月1日	
	菊地 馨	平成14年3月1日	平成17年3月31日
	小幡 光子	平成14年3月1日	平成22年3月31日
	末田 美保	平成14年3月1日	平成25年3月31日
	撫養 真紀子	平成14年4月1日	平成17年3月31日
	岩永 千秋	平成14年4月1日	
	高木 保子	平成14年4月1日	平成25年3月31日

人事の変遷 (平成16年4月1日～平成25年12月1日)

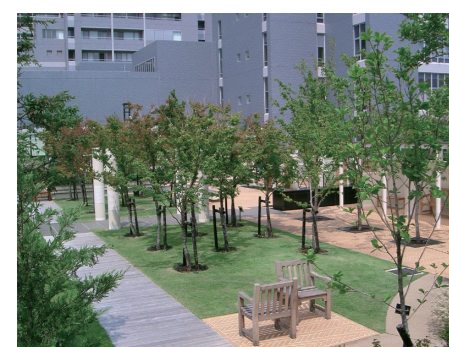
職名	氏名	任命年月日	退任(転)年月日
看護師長	山上 艶子	平成14年4月1日	平成18年3月31日
	木谷 恵	平成15年4月1日	平成25年3月31日
	兵頭 千鶴	平成15年4月1日	平成23年3月31日
	岡島 恵子	平成15年4月1日	平成20年3月31日
	渋谷 真理子	平成15年4月1日	平成17年3月31日
	仲 洋美	平成16年4月1日	
	田内 優子	平成16年4月1日	平成20年3月31日
	三重野 明美	平成16年4月1日	
	藤井 裕子	平成17年4月1日	平成21年3月31日
	朝倉 伸恵	平成17年4月1日	平成19年3月31日
	山口 千恵美	平成17年4月1日	平成19年3月31日
	江籠 留美	平成18年4月1日	
	久下 景子	平成18年4月1日	平成25年11月30日
	久松 千恵	平成19年4月1日	平成21年3月31日
	大畑 真理子	平成19年4月1日	平成24年3月31日
	永山 孝子	平成19年4月1日	平成24年3月31日
	中島 ミサエ	平成20年4月1日	平成23年3月31日
	仲本 悦子	平成20年4月1日	平成22年3月31日
	水口 誠子	平成20年4月1日	平成22年3月31日
	吉永 加代子	平成20年4月1日	平成23年3月31日
	鈴木 洋子	平成22年4月1日	
	大山 淳子	平成22年4月1日	
	今井 わか奈	平成22年4月1日	
	阪元 利恵	平成22年4月1日	
	山上 艶子	平成23年4月1日	
	梅澤 路絵	平成23年4月1日	
	波下 園	平成23年4月1日	
	田畑 喜美	平成24年4月1日	
	大前 泉	平成25年4月1日	
	川上 雅美	平成25年4月1日	
	我有 かずよ	平成25年4月1日	
	早川 敬子	平成25年12月1日	
医療安全管理者	山上 艶子	平成18年4月1日	平成23年3月31日
	吉永 加代子	平成23年4月1日	
	久下 景子	平成25年12月1日	
事務局長	藤川 徳行	平成16年4月1日	平成18年3月31日
	庄子 隆之	平成18年4月1日	平成19年3月31日
	遠藤 友二	平成19年4月1日	平成22年3月31日
	大勝 俊通	平成22年4月1日	平成24年3月31日
	竹内 茂	平成24年4月1日	平成25年3月31日
	大友 万	平成25年4月1日	
事務局長次長	久保 隆滋	平成15年4月1日	平成17年6月30日
	森田 繁	平成17年7月1日	平成21年3月31日
	福山 裕	平成21年4月1日	平成23年3月31日
	堤 圭介	平成23年4月1日	
庶務課長	宮本 暁男	平成15年4月1日	平成18年3月31日
総務課長	佐藤 求	平成18年4月1日	平成19年3月31日
	西 和弘	平成19年4月1日	平成20年3月31日
	窪田 秀伸	平成20年4月1日	平成23年3月31日
	吉岡 郷介	平成23年4月1日	平成25年3月31日
	宮地 義光	平成25年4月1日	
用度課長	井上 昭生	平成16年4月1日	平成18年3月31日

職名	氏名	任命年月日	退任(転)年月日
会計課長	池野 寛	平成16年4月1日	平成16年8月15日
	高江 裕洋	平成16年8月16日	平成18年6月30日
	菅 龍彦	平成18年7月1日	平成20年3月31日
	金氏 武文	平成20年4月1日	平成21年3月31日
	川江 隆行	平成21年4月1日	平成25年3月31日
	渡部 宏巳	平成25年4月1日	
医事課長	橋崎 久紀	平成15年4月1日	平成18年3月31日
	原 健次	平成18年4月1日	平成19年3月31日
	佐藤 求	平成19年4月1日	平成21年3月31日
	井手口 恭基	平成21年4月1日	平成23年3月31日
	森山 憲司	平成23年4月1日	平成25年3月31日
	大津 圭介	平成25年4月1日	
経営企画課長	能願 泰浩	平成18年4月1日	平成22年3月31日
	富久 誠	平成22年4月1日	平成24年3月31日
	大津 圭介	平成24年4月1日	平成25年3月31日
	棚橋 康行	平成25年4月1日	
栄養管理室長	井上 浩	平成14年4月1日	平成20年3月31日
	窪田 秀伸	平成20年4月1日	平成23年3月31日
	吉岡 郷介	平成23年4月1日	平成25年3月31日
	宮地 義光	平成25年4月1日	
勤労者医療総合センター			
所長	早川 徹	平成16年4月1日	平成17年3月31日
	奥 謙	平成17年4月1日	平成22年3月31日
	林 紀夫	平成22年4月1日	
部長	横川 朋子	平成16年4月1日	
事務長	木野 敏行	平成16年4月1日	平成18年3月31日
	大下 崇	平成18年4月1日	平成20年3月31日
	中野 浩之	平成20年4月1日	平成22年3月31日
	書川 修二	平成22年4月1日	
医療連携総合センター			
センター長	大園 健二	平成23年4月1日	
医療連携部長	萩原 秀紀	平成23年4月1日	
医療連携課長	小幡 光子	平成23年4月1日	
第二医療連携課長	森山 憲司	平成23年4月1日	平成25年3月31日
	大津 圭介	平成25年4月1日	
看護専門学校			
校長	早川 徹	平成11年4月1日	平成17年3月31日
	奥 謙	平成17年4月1日	平成21年3月31日
	天野 勝	平成21年4月1日	平成22年8月31日
	林 紀夫	平成22年9月1日	平成25年3月31日
	高塚 雄一	平成25年4月1日	
副校長	曾根 愛子	平成17年4月1日	平成20年3月31日
教務長	曾根 愛子	平成8年4月1日	平成20年3月31日
	山本 絹子	平成20年4月1日	
事務長	長迫 憲二	平成16年4月1日	平成17年3月31日
	続橋 克己	平成17年4月1日	平成19年3月31日
	園田 晴夫	平成19年4月1日	平成21年3月31日
	愛甲 正昭	平成21年4月1日	平成22年3月31日
	本田 雅信	平成22年4月1日	平成25年3月31日
	川江 隆行	平成25年4月1日	

記録写真



労働者健康福祉機構発足(平成16年4月)



増改築工事竣工
ホスピタルパーク「いぶきの園」開園(平成16年3月)

2005年(平成17年) 4月25日 月曜日 毎日新聞 (夕刊)



トランスの顔に縫われて病院に運び込まれた兵庫県「兵庫」の救急隊員が、救急隊員としての使命を全うし、命を失った。救急隊員としての使命を全うし、命を失った。救急隊員としての使命を全うし、命を失った。

JR福知山線列車脱線事故(救急対応)(平成17年4月)
(2005年4月25日付 毎日新聞 / 毎日新聞社許諾済み)



新手術室構築(平成23年3月)

記録写真



医療連携総合センター設置(平成23年4月)



外来化学療法室 移設・拡充(平成23年11月)



内視鏡センター リニューアル(平成24年2月)



がんセンター完成予定(平成26年2月)



記録写真

開院60周年記念式典・祝賀会(平成25年6月27日(木)開催)

記念式典



式辞：林 紀夫 関西労災病院 病院長



挨拶：武谷 雄二 労働者健康福祉機構 理事長



来賓祝辞：稲村 和美 尼崎市 市長



来賓祝辞：前田 芳延 兵庫労働局 局長



来賓祝辞：吉川 秀樹 大阪大学医学部附属病院 病院長



来賓祝辞：高原 周治 兵庫県医師会 代議員会議長

祝賀会



挨拶：早川 徹 関西労災病院 名誉院長



来賓祝辞：黒田 佳治 尼崎市医師会 会長



乾杯：奥 謙 関西労災病院 名誉院長



思い出話：多田 浩一 関西労災病院 元副院長



思い出話：大森 綾子 関西労災病院 元副院長



思い出話：堀 哲生 関西労災病院 元中央放射線部長



司会進行：大園 健二 関西労災病院 副院長



司会進行：上松 正朗 関西労災病院 副院長



当院60年の歩み：田村 茂行 関西労災病院 副院長

会場の様子



後楽会関西労災病院支部

